

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 6月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	2170102996		
法人名	社会福祉法人 三輪会		
事業所名	グループホーム 樫の実		
所在地	岐阜市世保北33番地 (電話) 058-229-5535		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年6月21日	評価確定日	平成19年9月12日

【情報提供票より】 (平成19年 5月 1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 12 人, 非常勤 11 人, 常勤 5 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての 1～3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	22,000～ 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成 19年 5月 1日 現在)

利用者人数	27 名	男性 8 名	女性 19 名
要介護1	9 名	要介護2	9 名
要介護3	7 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.9 歳	最低 73.2 歳	最高 96.8 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岐北厚生病院、みどり病院、近石病院、藤掛第一病院、あずま整形外科、竹内クリニック、桐山歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

岐阜市北東部の田園地帯にある、県道より一歩中に入り田畑が混在する静かな環境に建つホームである。開設3年目であるが、職員は母体法人から異動で配置され、その後の異動も少なく、顔なじみの関係が出来ている。ホーム内は広く機能的な間取りで中央には各階を通した中庭があり、フロア全体に均等な採光と、癒しの効果をもたらしている。屋上も広く洗濯干し、ガーデニング、パターゴルフ等が行われ、リビングでもカーリングやカラオケ、ミニコンサートなど娯楽活動も盛んである。職員は穏やかな対応でゆったりとしたケアが行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題としての指摘はない。前回の検討課題として、分かりやすい理念の明示に対して「居心地の良い居場所」と掲示されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	課題や指摘された内容は、本部での会議やリーダー会議で報告され改善策を検討、職員に周知・実行に移す体制を整えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	18年度から2ヶ月に1回開催し、家族や地域役員・包括支援センター職員の参加によりホームの現状報告や包括支援センターの業務説明などを行った。回を重ねるごとに意見・質問など活発になり、サービスの向上に取り入れている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日常的に家族とは頻りに電話連絡し情報の交換が行われている。苦情等直接の申し出はないが、家族の要望や意向を気兼ねなく話してもらえよう、職員は接遇にも十分な配慮をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	運営推進会議が始まって以来地域へのホームに対する理解が深まりつつある。自治会に加入し地域行事に参加したり、散歩での挨拶など顔なじみの関係作りに取り組んでいる。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域での生活や習慣の継続・参加が大切と考える運営理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて、職員は利用者と話し合いながら、地域での行事や催し物への参加・ホーム行事への地域住民の参加など交流に向けての支援に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも加入し、地域活動の情報を集め行事に参加したり、作品の展覧をしている。全員が一度に参加することは難しいが、行事内容や利用者の能力を見据えた上での参加支援を行っている。		地域住民がホームを訪れる機会を提供したり、交流が持てる取り組みの継続が期待される。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の課題などリーダー会議で検討し、各ユニットのリーダーを通し職員全員に周知している。今回の自己評価は各ユニットのリーダーが記載した。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	18年度から開催された運営推進会議には、利用者、家族、地区の民生委員、包括支援センター職員、ホーム職員が参加し、ホームの状況や介護保険サービスについての説明が行われている。		利用者の参加を基本としているため、会議は1時間が限度であるが、利用者と参加者が共にレクリエーション体験を行い、意見を取り入れている。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人には2ヶ所の包括支援センターが設置され、開催する会議にホームからも参加し、市との情報交換・共有が行われている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日常の細かいことは電話で報告するが多い。報告内容は「申し送り書」や「引継ぎ書」に記載し職員に周知している。	○	年に3～4回職員による葉書での近況報告を計画中である。家族との関係がより深まることに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理システムが設置されており、意見箱も置かれているが寄せられた苦情・意見は無い。家族とは面会時や電話連絡に要望や意見を聞き出す努力が行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設3年になるが大きな異動は無い。3ユニット内の利用者を職員が把握することを大切にし、ユニット間の異動は勤務体制として行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人で計画した研修に参加したり地域ケア会議へ出席し研修をつんでいる。	○	認知症介護実践者研修への参加はあるが他の認知症に関する研修参加は少ない。認知症に関する理解を深め質の高いケアの提供に更なる努力を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜市東部地域のグループホームと交流したり、2つの地域包括支援センターとの会議に参加しネットワークを作っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアハウスや包括支援センターからの紹介の入居者もあるが、直接希望の入居が多い。入居に対して少しでも迷いがあれば在宅での可能性を家族ともよく相談し無理のない、本人にとって安心の出来る生活の場所を提供する取り組みを行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に花の手入れや調理など日常の活動をする中で、喜怒哀楽を共に感じたり、支えあうことを職員も心地よく思っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントに加え、日常の会話や生活から本人の思いを聴いたり、選択肢の提供で意思を表明しやすく配慮している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いを把握し、記録内容を職員間で共有周知し、必要時には医師とも相談し、生活全体を見た計画を作成している。		看護職が母体法人の業務と兼務であるため今後も連携を図り支援が継続されることが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人から得た情報を基にケース会議で取り上げ、入居1年間は3ヶ月ごと、それ以降は6ヶ月ごとに見直しがされ、実施項目は毎日の実施が確認されている。状態変化時は現状に即した計画に見直されている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の外泊時、法人のデイサービスが利用できるような協力した実績がある。医療機関受診や理美容の利用等必要に応じ柔軟に対応する仕組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームかかりつけ医の定期往診がある。他科の受診は家族に依頼したり、職員での受診介助も行われている。受診介助に長時間を要する場合、ホーム内職員配置にも影響が現れている。</p>		<p>受診介助に長時間要することもあり、家族との協力体制のさらなる再構築に期待したい。</p>
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や入院については、入居時に説明し希望の確認が行われている。重度化に伴い、家族・医師・施設間での話し合いが持たれ、結果的に協力病院への入院となった事例がある。</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>排泄は自立している方が多いが、さり気無く排泄の様子を把握し、必要時には近くに行って支援している。訪問時の居室拝見時は家族許可の上、利用者にも丁寧に説明し了解を取っている。</p>		<p>記憶力の低下を理解され、日常生活の中で繰り返される同じ問いに対しても、丁寧に対応され本人の気持ちを傷つけないよう取り組んでいる。</p>
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>各ユニットでの差はあるが、畑仕事に出かける方、散歩される方、食材の買物など希望を確認し、体調やタイミングに配慮した支援が行なわれている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体法人の管理栄養士が献立を作り、材料も週1回ホームに届けられる。届けられた食材は利用者と共に受け取り、各階に分配・下ごしらえ・調理・配膳・後片付け等利用者の能力に応じた参加を促されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の準備は毎日行われている。1日2~3人が1対1で入浴し、利用者は2~3日ごとに入浴の支援がある。入浴を拒否する方には無理強いせず、清拭での柔軟な対応がされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意なことや趣味を把握し、日常生活の中での楽しみを提案したり、支援している。広いリビングを生かしたバターゴルフ・カーリング・ボウリングなどのゲームや掃除・洗濯干し・鉢植えの世話等役割を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1~2回の買物外出の機会があり、ホーム周辺の散歩や菜園作りの外出は毎日である。先日は蛍を見に3~4日に分けて数名づつの利用者で外出していた。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外庭の門には施錠があるが、玄関をはじめ各ユニット入口や1階居室のサッシ扉の施錠は昼間は無い。16時半以降は安全のため、施錠をする。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回の避難訓練や避難経路の確認が行われている。1階はどこからでも外に出られ、2・3階の非常口は広く外階段も手すりが付いた緩やかな階段である。		避難訓練の実施には、利用者の参加を検討中であり、取り組みに期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立で各フロアで調理し、利用者の食べやすい状態にして提供している。食が進まない方にはせかさず、また、口に合うメニュー変更などを配慮している。食事・水分の摂取量は健康管理表に記録している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは床暖房が設置され、各階中央が吹き抜けの光窓で採光は十分である。居室・生活空間ともに窓は開放され採光も良く、自然換気があり気になる臭いは全く感じない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやイス、仏壇など利用者それぞれ馴染みの品が搬入されている。居室は畳とフローリングの2タイプあり、それぞれに合わせた備品が生活しやすいように設置されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。